

ラグビー交流を遺産に

静岡県知事 川勝平太 × 駐日アイルランド大使 ポール・カバナ氏 対談

9月28日、ラグビー・ワールドカップ(W杯)日本大会の日本対アイルランド戦が実施され、日本が「静岡ショック」と言われる歴史的勝利を挙げた。今回のW杯では磐田、掛川の両市が共同でアイルランドの公認チームキャンプ地となり、来年の東京オリンピックでも袋井市が同国選手団をホストタウンとして迎える。これらを契機に静岡県とアイルランドの交流は活発化しており、今後の発展が期待される。「ふじのくに」を「スポーツと文化の聖地」と取り組む川勝平太静岡県知事が、アイルランドのポール・カバナ駐日大使と対戦を前に語り合った。(本文は2019年9月21日付 毎日新聞掲載記事より転載)

「大使にとっての日本と静岡県
の印象、知事にとってのアイ
ルランドの印象についてお聞か
せください。」

カバナ氏 日本はとてもフレンドリーな国ですね。日本が経済、社会の両面で達成してきたことに尊敬の念を抱いています。アイルランドとは民主主義という大事な価値観を共有しています。今回の赴任のために1年前に成田国際空港へ降り立って、

「なんて穏やかな国なんだろう」と実感しました。大都市の東京でも人々は落ち着いています。そして、静岡県については素晴らしい印象を受けています。今年3月に訪ねました。美しい「ふじのくに」ですし、製造業の拠点でもありますね。静岡市の日本平で富士山を望む美しい景色を楽しみました。特産のメロンもおいしかったです。また、アイルランド出身の文学者、ラフカ

ディオ・ハーン(日本名は小泉八雲)が何度も訪ねた焼津市には彼の記念館があります。100年以上前、ハーンは日本を愛し、その文化や伝説を英語に翻訳する第一人者となりました。日本の文化と人々について尊敬の念を持って書き留めた彼のことを誇りに思っています。

ローズ・オブ・サマー(邦題・庭の千草)のメロディにだれもが親しんでいました。スウィフトの「ガリバー旅行記」も同様です。日本では多くの人がこの作品をアイルランド文学と気付いていませんが、どの子供もガリバーは知っています。それから詩人のイエーツ、オスカー・ワイルド、バーナード・ショー。アイルランドは優しき心を持った「詩の国」ですね。そしてビール

“富士や駿河湾、満喫を”

静岡県知事 川勝平太



“対戦、互いを知る機会”

駐日アイルランド大使 ポール・カバナ氏

のギネスも忘れてはなりません(笑い)。個人的にはアイルランド出身の大学教授と交友し、首都ダブリンの大学に招かれて講義した思い出もあります。

「28日には、いよいよ静岡スタジアムでラグビーW杯の日本対アイルランド戦が実施されます。」

知事 試合は試合です。2017年6月のテストマッチを見ましたが、アイルランド代表は本

当に強くて日本とは横綱と幕下のようでした。彼らは昨年、欧州6カ国対抗戦で優勝し、あのオールブラックス(ニュージーランド代表)も倒しています。今回、トップ級のチームがはるばる静岡県に来るのですから、最大限歓迎します。しかし、日本代表はベストを尽くします。

カバナ氏 試合は両チームにとって1次リーグの2試合目となり、いずれも決勝トーナメン

トへ進出する意気込みでしょう。日本チームは大会へ向けてしっかりと準備しており、またホームでの試合です。アイルランドにとっては危険かもしれない。しかし、この試合は両国をより一層近づけることになるでしょう。アイルランド人はW杯の期間中、日本と静岡に注目します。日本の皆さんもアイルランドについて知る機会になるでしょう。アイルランドから観戦

のため3万人が訪日するとみられます。これが人と人とのつながりを作り、今後のビジネスの発展と教育・文化・観光の交流にひとつのレガシー(遺産)になれば良いですね。

知事 両国は価値観を共有し、相互に尊敬しています。特に11年3月に東日本大震災が起きて以降、両国間で真の友情関係が始まったと思います。アイルランド国民は被災地のために100万



静岡県知事 川勝平太

1948年生まれ。京都市出身。早稲田大学、同大学院を経て英オックスフォード大学で博士号取得。早大教授、国際日本文化研究センター教授、静岡文化芸術大学学長などを経て2009年より現職。現在3期目。



駐日アイルランド大使 ポール・カバナ氏

アイルランド国立大学ダブリン校卒業。同国国防省、外務省を経て、国連アイルランド政府代表部大使、駐フランス、駐中国、駐アラブ首長国連邦大使などを歴任。2018年より現職。

ユーロを寄付してくれました。大変感謝しています。震災2年後の13年12月にアイルランドのケニー首相(当時)が訪日され、両国関係の強化・発展に向けた共同宣言が発表されました。17年には外交関係樹立60周年を迎えました。そして今回、静岡県で行われるラグビーでの両代表の対戦には県民が注目しています。試合後はノーサイドですから、ギネスや、焼津市に工場があるサッポロビールで乾杯しましょう。今はサッカーが人気ですが、ラグビーを子供たちへのレガシーにしたいですね。アイルランドから訪日する3万人の

うち1万人は静岡県を訪れるでしょう。試合前後には地元の風景やイベント、文化などを楽しんでもらえると思います。富士山や駿河湾など世界有数の美しい景色があり、お茶の「茶草場農法」とわさびの伝統栽培は世界農業遺産に認定されています。

——アイルランドと静岡県の関係の今後について、どんな期待をしていますか？

カバナ氏 将来より強いつながりができるでしょう。W杯をきっかけにお互いへの興味、関

理想的なEU拠点に

心を発展させたい。そうすれば、まずは相互への観光旅行が人気を増していくでしょう。そして訪れた人々が現地の魅力を語ることになるでしょう。美しい緑の国アイルランドは日本人旅行者を魅了するはずで、欧州連合(EU)に加盟しており、査証(ビザ)が不要で、ロンドンやパリから行きやすく、文学、芸術、伝統音楽、ダンスなど独自の文化があります。食の島でもあり、世界各地へ牛肉や乳製品、水産物など多彩な食材を輸出してい

ます。アイルランドでも日本食への高い関心があり、日本人シェフが営む懐石料理レストラン二期一会はミシュランの二つ星を獲得しています。温暖な気候でゴルフ大国でもあり、島全体がコースのようなものです。今後、静岡県とは留学生の交換や経済セミナーなどを通じて結びつきを強固にできると思いますが、日本はアイルランドの生命科学や情報通信技術、金融分野へ多くの投資を行っていません。隣の友人である英国がEUを去るのは残念ですが、そうなる前にアイルランドはコモン・ロー(慣習法)を有し、EUにお

いて英語を母語とする唯一の国となります。首都ダブリンは欧州有数の金融センターであり、日本企業にとってもEU市場において一層理想的な拠点となるでしょう。

知事 アイルランドと日本はどちらも島国で大洋に面しているという共通点があります。今回のラグビーをきっかけに長く続く関係を築きたいですね。英国のEU離脱に関しては、英国からアイルランドへの拠点移転を考える日本のビジネスマンもあり、関係が拡大するでしょう。アイルランドの人たちは誠実かつフランクです。国の大きさも北

海道と同じくらいでちょうど良い。静岡県も県内総生産はニュージーランドと同程度の約16兆円あり、東京と京都の間にあつてリラックスできる土地です。天皇、皇后両陛下や愛子さまも毎年休暇に訪問されています。太平洋側の静岡県は冬も青空が広がって温暖で、雪をかぶった富士山との対比はとても美しいです。食のバラエティーに富んでおり、富士山からの伏流水は味が良く酒造りにも使われています。アイルランドと似

英から移転、関係拡大

た庭園のような場所です。あの徳川家康も余生は静岡で送っています。

——最後に、28日の両代表戦へ向けて、お互いへのエールをお願いします。

知事 オスカーク・ワイルドが童話で描いた巨人と子供を思い出します。巨人であるアイルランド代表に敬意を払い、日本代表はベストを尽くします。侍魂を見せましょう。一期一会。次の試合のことは考えずに巨人と戦いましょう。

カバナ氏 ラグビーのアイルランド代表は、アイルランドだけではなく英国の北アイルランドも合わせた全島から選抜されており、法律上は別々の国に属する選手たちが一つのチームとなつて戦います。確かに日本もアイルランドも、両チームはこれが最後の試合であるかのようにプレーすべきですね。試合結果を予測するのは不可能なので、試合中、私はアイルランドの小旗を振って叫ぶでしょう。もしも日本が勝ったらそれだけの資格があったということですよ。これは大一番になりますよ。